

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
情報・技術ワーキンググループ（第 11 回）

意見

福田 順子

「資料 1 情報の領域（仮称）、情報・技術科（仮称）、情報科の体系整理（続き）」に関する意見

30 ページから 33 ページの「移行できる内容の整理」について、当該部分は、情報の領域および情報・技術科（仮称）の設置の意図や狙いについて、現場の教員にとって非常に理解しやすい形で整理されており、大変意義のある資料であると受け止めております。

今後は、告示を見据え、各教科等との調整の上でさらに具体化が図られるとのことですので、こうした整理がより明確化されることで、現場の教員の理解が一層進み、教育課程全体を通じて情報活用能力を育成していくという方向性が、学校現場で具体的に実現されていくことが期待されると考えます。

資料 34 ページ、条件整備の方向性について、申し上げます。

本資料では、条件整備の方向性について、具体的なプランを明確に示していただき、感謝申し上げます。指導力向上に資する研修の支援や参考資料、動画教材の提供、さらには新しい内容を指導するための環境整備等、次期学習指導要領を学校現場で着実に実現できるよう、いずれも非常に重要な内容を記載いただいたと受け止めております。こうした取組が一体的に進められることにより、現場において新しい教育内容を実践する基盤が整うものと考えております。示していただいた方針に、強く賛同申し上げます。

「資料 2 情報・技術WGの取りまとめに向けた検討について」に関する意見

本件につきましては、資料全体を通じて、小学校から高等学校までの情報活用能力の抜本的向上に向けた方向性が体系的に整理されており、スムーズな接続ができるようになったことに、感謝申し上げます。

スライド 12 の 3 ポツ目、さらに情報Ⅱについては、生徒や地域の実情に応じた特色・魅力ある教育課程編成や、実社会の課題を探究的に解決する学習の充実を図る観点から、「理数探究や総合探究も一定の幅の範囲で単位数を配当する仕組みと同様に」単位数を柔軟に配当できることが適当、スライド 43 に書かれている文言をこちらにも同様に記載して修正いただけると、より情報Ⅱ(5)の目指すものや趣旨が誰にでもわかりやすく示すことができると考えます。

また、教育課程編成の観点からも、学校が教育課程を編成する際には、「単位数の目安」「配当の範囲」といった情報が明示されていることが重要となります。そのため、取りまとめにおきましては、情報Ⅱの単位数の幅や目安が、教育課程編成上把握できる形で示されることが望ましいと考えます。その上で、情報Ⅱの単位数について、例えば、43 ページの幅を示すところに、「例えば 4

単位配当した場合」のように書かれておりますが、

「具体的な目安がどの段階で示されるのか」

「小学校・中学校と同様に総則で扱われるのか、あるいはワーキングで整理されるのか」といった点について、今後の見通しが共有されると、現場として大変理解しやすいと感じております。

いずれにしましても、今回の整理はこれまでの議論を踏まえた整理の明確化であり、高校段階における探究的な学びを通じた情報活用能力の抜本的向上を実現するために重要なポイントであると認識しております。

今後の取りまとめにおいて、その点が具体的に示されることを強く期待しております。